

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 マルコ 柴本 孝夫

263号

2024.2.25 発行

YASURAGI



「大切な言葉にこそ聴き続けたい」

司祭 マルコ 柴本 孝夫

皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

冬らしくぐっと冷え込んだかと思えば、また急に春のようにあたたかくなり、まるで心身を揺さぶられるかのようです。しかしそうやって、身も心も精錬され整えられたいと思います。

さて、今年も大斎節に入りました。主イエスの荒れ野での試みを覚えて、私たちも信仰の修練期間として、引き続き過ごしてまいりたいと思います。

そもそも、なぜ神の子であるイエス・キリストが、こんな試練の時を過ごさなければならなかったのか。その始まりは“霊”が荒れ野に送り出した、と聖書に記されています。ある日イエスは、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられました。するとその時、天が裂け、“霊”が鳩のようにイエスに降った。直後、この聖霊がイエスを荒れ野へ送り出します。それは厳しい宣教活動へと向かうイエスを高めるために、聖霊が荒れ野に追いやった、と言われています。

私たちも大切なことに取り組む時、しばしばそれを妨げようとする力が及んでくるのを感じます。しかしそれは、自分の考えや行いをさらに高めようとする“試練の時”として受けとめることが大切ではないでしょうか。

今、多くの人々に注目されているのはなんとと言っても大リーガーの大谷翔平選手です。しかし私は、かつてイチロー選手の姿が大変気になっていました。彼は現役時代、試合がある日もない日も、出場する日もしない日も、同じ基本練習のメニューをコツコツと取り組み続けました。その姿は、まわりの人々の目にはまるで機械仕掛けのようで、ぶれない心は脅威だったと言います。とにかくそうやって闘いの日に備えていました。私たちが日々聖書を読み、神さまを礼拝し、また祈ることがちょうどこれと重なるように思えます。

あらゆる手を使い、「自己中心に生きよ」と働きかけてくるサタンの誘惑、それとは真逆の「他者のために生きよ」と示し続けられる神さま。この神さまからの大切な言葉にこそ聴き続けたいと思います。

今年2024年の標語聖句には、
「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。」(コロサイの信徒への手紙 3章16節)が選ばれました。ごいっしょに、このみ言葉を深く味わいつつ歩みましょう。